

メールマガジン（教育・英国イングランド）

英国は4つの地域から構成され、それぞれの歴史や分権化の中、各議会で定められた法令に基づき、地域に即した政策が実施されているため、教育制度に関しても、地域により異なる面があります。

英国内全人口の84%が居住しているイングランドでは、義務教育期間は5～16歳の11年間で、最終学年の学期末にGCSE（General Certificate of Secondary Education）と呼ばれる中等教育修了資格試験を受け、義務教育を修了します。

学校は、授業料などにより運営される私立校と、公費で維持される公立校の大きく2種類に分けられ、5～11歳における初等教育を行う公立校はプライマリースクール、11～16歳における中等教育を行う公立校はセカンダリースクールと呼ばれています。

教育省が毎年発表する統計によると、児童生徒数は年々増加傾向にあり、2015年は前年比1.3%増の840万人、そのうち、アカデミー（Academy）通学者が前年から30万人増え270万人となりました。

アカデミーは、公的財政により設立、国から直接資金が交付され、株式会社を含む多様な主体によって運営される公設民営型の学校で、授業料は無償、一般の公立校と異なり地方自治体から独立していること、全国共通カリキュラムへの準拠義務がないこと、国の定める教職員の労働条件にしばられないことなどが特徴です。荒廃したセカンダリースクールの学校再生を目的とし、2000年以降2010年までに203校（6.5%）がセカンダリースクールからアカデミーへ転換しました。2010年のアカデミー法施行後は要件緩和及びプライマリースクールを含む全ての公立校への対象拡大により転換が急増し、現在、セカンダリースクールの2,078校（61%）がアカデミーになっています。

公立校の「アカデミー化」は、自立した学校経営や独自のカリキュラムによる教員や教育の質の向上が評価される一方で、「学校体系の民営化」「地域社会から学校が引き離されることによる地域社会の弱体化」といった批判的な意見も少なくありません。

ロンドン事務所 田村所長補佐

参考資料

私立校は、独立学校 (independent school) と呼ばれ、公費補助を受けず自らの財源 (主に授業料) により運営されます。

公立校は、設置や維持、管理運営形態により、公立学校 (community school)、公営学校 (publicly-funded school)、公営独立学校 (publicly-funded independent school) の3種類に分けられます。

イングランド内学校の学校 22,504 校の内訳 (校数)

	公立学校	公営学校			公営独立学校	計	独立学校 (私立)
		有志団体立		地方補助学校	アカデミー		
		管理学校	補助学校				
プライマリー スクール	8,124	2,233	3,270	699	2,440	16,766	2,357
	48%	13%	20%	4%	15%		
セカンダリー スクール	657	43	301	302	2,078	3,381	
	19%	1%	9%	9%	61%		
計	8,781	2,276	3,571	1,001	4,518	20,147	

(出典) 2015年7月教育省発表、DfE, National Statistics, 'Schools, pupils and their characteristics: January 2015'

参考文献：文部科学省『諸外国の教育行財政』ジヤース教育新社、平成25年